

# 授業計画書(シラバス)

教科名	基礎造形 平面	曜日 時間	金: 9:00~12:00	担当教員名	非常勤講師 西 治子
-----	---------	----------	------------------	-------	---------------

	前期指導案		後期指導案	
(年間 2回授 業日)	4月	12,19,26	10月	4,11,18,25
	5月	10,17,31	11月	1,8,15,22,29
	6月	⑦,14,21,28	12月	6,20
	7月	5,12	1月	17,24③
	9月	⑥	2月	

方授 法業	( 講義 ・ <b>実技</b> )	( 講義 ・ <b>実技</b> )
----------	--------------------	--------------------

授 業 内 容	<p>1. A4コピー用紙を用いた造形試作と鉛筆デザイン (4/12-6/7 全7回) 【デッサンのモチーフとして、学生が準備するもの】 ①履き古したシューズ1足②ガラス③ペットボトルなどのプラスチック④金属⑤布各1点⑥セルフポートレート、クロツキ帳、鉛筆デッサン用具、画用紙を固定するクリップ、マスキングテープ、セロテープ、クラフトテープ、はさみ、カッターナイフ、のり、色鉛筆(以上年間を通して利用するのでいつも手元においておく) ・モチーフ①～⑤を構成し、細密描写する。画面の中に「セルフポートレート」を何らかの形で導入する。モチーフが個人を物語る「自己紹介としてのデッサン」を目指す。 ・イメージの抽出、描画のフットワークを図るため、ショートタイム・ドローイングを行う。自己の記憶や観念の世界にある諸々の表象と、現実の物質との誤差についてディスカッションする。(講師の問いかけに答えるかたちで) ・天気の良い日を選び、ファミリーパーク内の羊を写生する。 ・A4コピー用紙による造形試作 「最大(最小)の容積に見えるかたち」「音が出るかたち」「A4紙がラグジュアリーに変わるとき」など、素材、用途の既存概念に挑戦するワークショップ。</p> <p>2. 色彩をマネジメントする (6/14-9/6 全6回) ・与えられたチャートにそって、色鉛筆や水彩などを用いた3色程度の色彩構成を行う。色彩が重要なファクターとされるテーマについても話し合う。Ex. 季節感、味覚、各職業で優先されるカラーリング、セレモニー、スポーツ、エクステリアからインテリア、乗り物など。 ・見るもののクリエイティビティを刺激する優れた配色モデル(資料)をできるだけ多く収集し、自分のことばで読み解いてみる。その1～2点についてレポートを提出する。 ・あなたの(ガラス)作品に高い視覚的効果を与えるために、色彩ができること。色を主役に据えるとはどのようなことか。最終的に、今後の制作の資料となる独自の「カラーチャート」を作成する。手法は自由とする。</p>	<p>3. 揺らぐかたち一椅子と風景 (10/4-11/15 全7回) ・クラフト紙を用いて椅子(模型)を造形する。地位のシンボルとしての椅子、理髪店の椅子、スペースシップの椅子、動く椅子、座れない椅子などを自由に作る。機能は度外視してよい。あくまでもユニークな形、斬新な装飾を主体とする。 ・紙をさまざまに加工して「風景」を出現させる。第1課題「A4コピー紙による試作」からさらに踏み込んだ造形を目指す。正方形の紙から学生の多くが鶴などの折り紙を連想し、簡単に思考停止に陥っていく。既存の紙遊びから距離を置き、新たな形を導き出せるかが今課題の核心となる。オリジナリティを求めて必死に技法を練り出してほしい。接着剤、ひも、針金、テープなどの補助素材も使用できる。</p> <p>4. 選択課題 (11/22-1/31 全7回) ①Inner Voiceーカラダノ声「カタチ」ニ カフル時 身体感覚にスポットをあて、緊張と弛緩、「健康」の考察、循環器系、消化器系、筋肉と脂肪、痛みの地図、モチベーションの源泉を体に発掘する等、近年ますます高まる体への関心をテーマに多角的な視点で造形する。 ②エンジン(engine) 前回の「スイッチ」に続く装置シリーズの第2弾。あなたの内的発動機の形態を自由に表現する。 ①、②とも素材、手法は自由。  ※O印は講評日です。 授業予定日はすべて出席します。</p>
------------------	--	---

到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細密描写を通して観察力と物の本質に迫る洞察力を養う。</li> <li>・造形要素のうち特に色彩の効果、影響に着目し、自己の色彩傾向を研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の工業製品からサイズ、用途、機能といった属性を除き、純粋な色彩と形態による造形を導き出す。</li> </ul>
----------	---	--

成績 基準 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の正確なプロポーション、質感と量感、画面上の遠近感が描写できているか。</li> <li>・自己が設定した色彩のテーマに沿って作品が展開できているか。完成度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用する素材(紙)の可能性を広げ、加工を工夫して独自の形を制作しているか。</li> <li>・失敗を恐れず思い切った発想を展開しているか。</li> </ul>
----------------	--	---

留意 事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチを常に行い、実際の制作にスムーズに連動させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さなアイデアの芽を丁寧に育て現実の形として具現させること。そのために想定されるさまざまな労力を惜しまないこと。粘り強さを発揮してほしい。できる限り研究所内で制作すること。</li> </ul>
----------	--	--